

金春禅竹 能役者・能作者。金春座を確立。世阿弥をしのぐ能役者で、哲学的世界築き、音阿弥と双壁視された。

こんばるぜんちく

・ ・ ・ ・ ・ 1405 = 生。金春権守の孫で、金春弥三郎の子。

足利義満没・1408 = 3歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1414 = 9歳 :

足利義持出家1423 = 18歳 :

世阿弥の女婿となる。

父の弥三郎は早世したらしく、禅竹は岳父の世阿弥に教導を仰ぐことが多かったようで

義教鑑引將軍1428 = 23歳 : *金春大夫になり、「六義」「拾玉得花」を世阿弥から相伝されており、その奥書や

・ ・ ・ ・ ・ 1432 = 27歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1433 = 28歳 : 「却来華」の文言から、世阿弥が禅竹の将来に囑望していたことが知られる。

世阿弥配流・1434 = 29歳 : この年、世阿弥が佐渡配流。*世阿弥配流後の能界を代表したのは、観世の音阿弥と金春の禅竹で、

世阿弥著述の秘伝書を預かってもらいたらしく、

・ ・ ・ ・ ・ 1437 = 32歳 : 宝山寺本「花鏡」は、その間に禅竹が写したものと推定されている。

永享の乱始・1438 = 33歳 :

嘉吉の乱・ ・ 1441 = 36歳 :

対馬嘉吉条約1443 = 38歳 : この年、世阿弥が死去、

・ ・ ・ ・ ・ 1450 = 45歳 :

古河公方始・1455 = 50歳 : 「六輪一露之記」を著す。

・ ・ ・ ・ ・ 1456 = 51歳 : 「歌舞髓脳記」を著す。

・ ・ ・ ・ ・ 1458 = 53歳 : この年大夫の座を譲って出家した*音阿弥とともに斯界の双壁視され、

寛正大飢饉始1459 = 54歳 :

・ ・ ・ ・ ・ 1460 = 55歳 : 「五音三曲集」を著す。

・ ・ ・ ・ ・ 1464 = 59歳 : *この頃、子の七郎元氏に家督を譲って出家。

・ ・ ・ ・ ・ 1465 = 60歳 : 「明宿集」を著すか。

応仁の乱始・1467 = 62歳 : 「至道要抄」を著すか。

・ ・ ・ ・ ・ 1468 = 63歳 :

山城の薪庄の多福庵に住んでいたが、

・ ・ ・ ・ ・ 1470 = 65歳 : この頃、没した。